

## 障害者支援施設 羽合ひかり園

### 1 基本方針

どんなに障がいが重くても、「施設から地域の中へ」を目標とし、一人ひとりの幸せを考え、その人らしい豊かな生活が送れるよう支援する。

### 2 利用者の状況（令和3年3月31日現在）

#### （1）入所者状況

（人）

利用人数		前年度末利用者数	令和2年度中の入退所状況								利用延人員	定員に対する年間平均稼働率	年度末利用者数
			入所人員	退所人員	退所理由別				死亡				
					GH	アパート等	家庭復帰	施設移管		契約解除(入院等)			
生活介護	80	87	4	3	0	0	0	1	2	0	20,153	93.6%	88
施設入所支援	50	48	5	4	2	0	0	1	1	0	17,033	93.3%	49
元	生活介護	80	85	3	1	0	0	0	0	1	20,434	94.6%	87
継	施設入所支援	50	47	2	1	0	0	0	0	1	17,110	93.5%	48

#### （2）障害支援区分

##### ①生活介護

（人）

性別	障害支援区分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	0	0	2	8	21	39	70
女性	0	0	0	0	3	1	14	18
計	0	0	0	2	11	22	53	88

##### ②施設入所支援

（人）

性別	障害支援区分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	0	0	0	2	7	29	38
女性	0	0	0	0	2	0	9	11
計	0	0	0	0	4	7	38	49

### 3 事業の実施状況

#### （1）行動障がい者等の支援の充実

ア 利用者が、安心して穏やかな生活が送れるよう、月1回精神科医と日々のデータや記録を基に相談を行った。

また、国立のぞみの園で長期研修を終えた職員をスーパーバイザーとして招聘し、2か月に1回支援困難な事例ケース検討会を実施し、不適応行動の軽減や余暇支援の充実に向けて取り組んだ。

イ 強度行動障がい支援者養成研修（基礎研修10名、実践研修3名）と国指導者研修に1名が参加し、専門知識と支援技術の強化に努めた。

#### （2）重度知的障がい者の高齢化支援の充実

ア 医療機関と連携を密に取りながら病気の早期発見に努めた。

イ 2か月1回、母来寮の理学療法士を招聘し、リハビリ相談会を行った。利用者の状態に応じた機能維持の方法や福祉用具活用等の助言を受け、利用者の安全や機能低下の軽減に努めた。

ウ 高齢化及び重度化への対応として、心身の状態観察、記録を徹底し、利用者の現状を把握することで一人ひとりに合った、食事、活動内容を見直した。

また、事故につながる箇所については速やかに検証し、環境整備を行うことで、安心・安全かつ快適な生活が送れるよう取り組んだ。

### (3) 生活介護の充実

ア 2020年度あいサポートアートセンター活動支援事業補助金を活用して、アート活動に取り組んだ。

計画では外部講師が年間24回来園する予定であったが、コロナ禍の影響で13回の来園にとどまり、電話相談等を行いながら活動した。

作品は「2020年度あいサポート・アートとっとり展」へ20点出展し、金賞、審査特別賞、佳作に各1名が入選した。

また、「ひかり園文化祭」「中部あいサポートフェスタ2020」にも作品を展示した。

イ 日中活動に音楽療法・ウォーキング・ワーク活動・生産的活動等を取り入れ、情緒の安定、身体機能の維持及び生活の質の向上に努めた。

ウ 意思表示が難しいご利用者には、文字だけでなく写真や絵を取り入れたカードを用いながら、わかりやすく情報を伝え、自らの意思が反映できるよう取り組んだ。

### (4) リスク管理と感染症予防

ア 利用者が健康で安心、安全な生活を送れるよう、事故発生時の対応マニュアルの確認、個別リスク管理表の見直し（年1回）、各寮会議でヒヤリハット報告の検証（月1回）、リスクマネジメント会議で情報共有（月1回）、重大な事故の発生時は、緊急リスク検討委員会を開催し、早い段階で要因を検証し適切な対応を講じた。

イ 感染症（新型コロナウイルス・インフルエンザ・ノロウイルス等）の予防に努めた。

1月25日から2月5日には、新型コロナウイルスの濃厚接触が疑われる利用者1名の方を、園外の日中活動場所を使用して、職員4名がローテーション勤務で支援した。

鳥取看護大学教授と鳥取県福祉保健部局職員と検討会を重ねながら支援を行い、幸い感染には至らなかったが、改めて入所施設で感染が発生した場合のリスクの大きさを感じた。

今後も感染症の防止対策として、適宜感染対策委員会を開催し、園内で感染症が発生しない対策及び感染症が施設内で発生した場合の適切な対応等について検討していく。

### (5) 権利擁護と虐待防止

ア 権利擁護及び虐待防止に関する研修会（園内は年1回、園外は随時）の参加、「虐待防止振り返りチェックシート（年1回）」及び「虐待の目チェック（2か月に1回）」を実施し、支援のスキル向上を目指した。

また、虐待に繋がるおそれのある事案は、速やかに施設全体で要因を検証し対策を講じた。

イ やむを得ず身体拘束が必要な利用者については、個別支援計画に記載し、拘束時間、拘束状況等の記録をとり、月1回の寮会議で身体拘束の縮減に向けて話し合いを行った。

### (6) 地域との連携・交流の促進

ア 例年参加している浅津地区の運動会、倉吉養護学校との交流会等、今年度はコロナ禍の影響で多くの行事が中止或いは縮小されたため参加できなかった。

イ 地域貢献活動として、湯梨浜町主催の東郷池一斉清掃「東郷池を守り育てるアダプトプログラム」に職員十数名がボランティアで参加した。また、利用者と職員が地域の公園のゴミ拾い（月1回）を実施した。

### (7) 経営改善・基盤の確立

ア 毎年、強度行動障がい者、支援困難者からの申込みがあるものの、個室がないため入所の受け入れは難しい状況であるが、生活介護については、他施設から支援困難者（1名）の受け入れを行った。

イ 稼働率 生活介護98% 施設入所支援95%、短期入所15%を目標としたが、長期入院者、入退院を繰り返す利用者があり、稼働率が、生活介護93.6% 施設入所93.3%、短期入所0%となった。

ウ 限りある資源を無駄にしないよう、全職員で使用済み牛乳パックの再利用（トイレトペーパーに交換）、水道光熱費、コピー用紙の節約に努めた。

## 4 実習、ボランティアの受入状況

## (1) 実習の受入実績

実習受入先	実習期間(月)	実人員	延人員
鳥取短期大学	9月	4人	40人
計		4人	40人

## (2) ボランティアの受入実績

なし

## 5 附帯事業

(1) 短期入所事業 定員 空床型

(2) 日中一時支援事業 定員 上記同様 (主な受入先：琴浦町)

(3) 利用実績 (人)

事業区分	今年度利用者数		前年度実績利用者数	
	実人員	延人員	実人員	延人員
短期入所事業(宿泊有)	0	0	3	17
日中一時支援事業	5	26	4	26